令和７年９月 5日

令和７年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和７年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和7年4月17日(木)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問調査）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問調査）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　52人	算数　52人	理科　52人
第５学年	国語　50人	算数　50人	理科　50人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

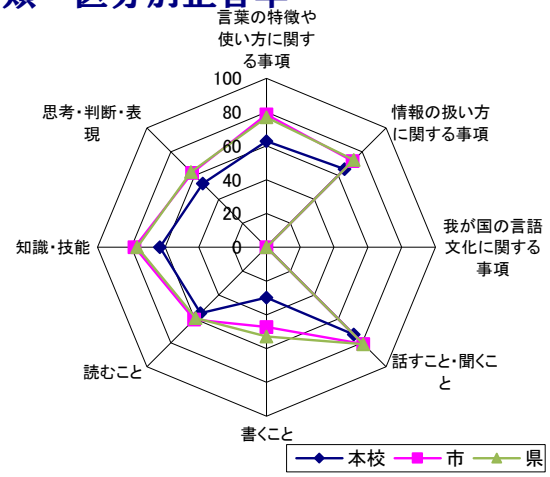
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	62.8	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	65.4	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと･聞くこと	73.1	81.0	81.1
	書くこと	29.8	47.2	52.8
	読むこと	55.1	60.5	59.3
観点	知識･技能	63.1	78.0	76.5
	思考･判断･表現	53.3	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

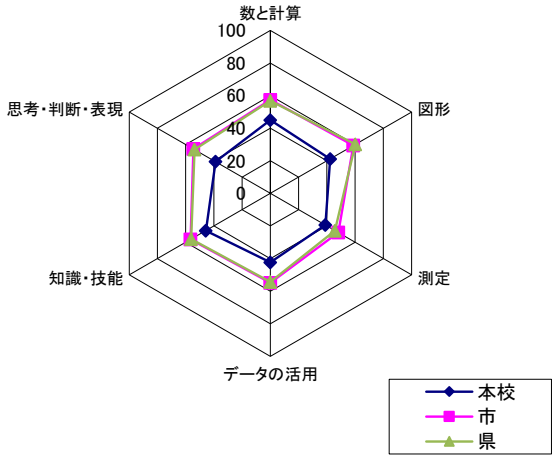
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●漢字を正しく書く問題に課題が見られる。 ●主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ問題に課題が見られる。	･朝の学習や家庭学習などで，新出漢字だけでなく，既習の漢字も反復練習をする機会を増やしていくとともに，文章を書くときには，既習の漢字を使うように指導していく。 ･文章を読むときや書くときに，文の構成を意識させたり，文法の問題にも取り組ませたりする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●国語辞典に載っている順番として，正しいものを選ぶことに課題が見られる。	･単元の始めに，語句調べなどの活動を入れることで，国語辞典を使う機会を増やし，国語辞典の引き方に習熟できるようにする。 ･国語辞典を引くときに，清音･濁音･半濁音の順番を再度確認させる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ●友達の意見に対して，自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題に課題が見られた。自分の意見は明確にできても，その理由を表すことができていない。	･国語だけでなく，他教科でも，話合いをするときには，自分の意見の根拠を明らかにして話すように指導していくとともに，学級会などで，児童が中心となって話合う活動を，繰り返し行うようにし，話合いの手順や司会者の役割などを身に付けられるようにする。
書くこと	平均正答率は，市の平均より低い ●段落の役割について理解し，2段落構成で文章を書くことに課題が見られた。 ●無解答率が高かった。	･段落の役割について考えさせながら文章を書くように指導していくとともに，条件に合わせて，文章を構成できるように，条件を変えながら，作文を書く練習をさせる。 ･無解答を減らすために，作文の視写などを繰り返し行い，作文の型を身に付けさせる。
読むこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ●説明文で，文章の要約を読み，空欄に適する言葉を書き抜く問題に課題が見られた。	･説明文では，中心となる文や語句に着目して読むように説明文の読み取り方を繰り返し指導していく。また，中心となる文や語句を使って，内容を要約できるように，繰り返し練習してさせる。

宇都宮市立国本中央小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	45.0	57.4	56.9
	図形	42.3	58.7	60.1
	測定	38.9	48.1	45.7
	データの活用	42.3	54.9	54.3
観点	知識・技能	45.7	56.6	56.2
	思考・判断・表現	38.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

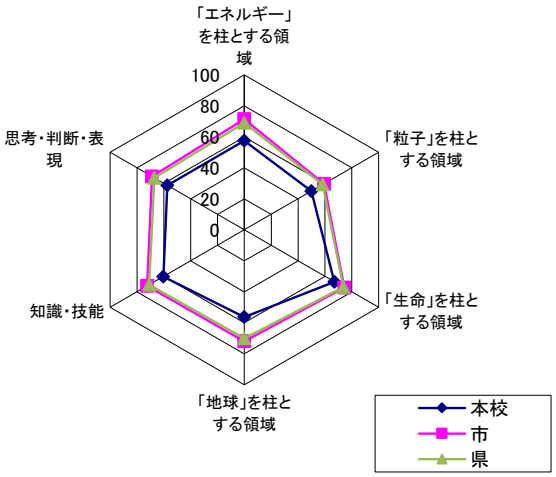
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均より低い。 ○3けた−3けた＝3けたの計算ができるかどうかの問題がよくできていた。 ●大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では，課題が見られた。	・大きな数のしくみが十分には定着していないことが分かる。数直線や位取り表を活用することで，再度定着を図る。
図形	平均正答率は，市の平均より低い。 ●図形の性質を理解して，作図をしたり頂点を見つける問題では，大きな課題が見られた。 ●球の性質を理解して，切り口の形を考えたり半径や直径を利用して長さを求める問題に課題が見られた。	・図形の性質や作図の仕方が定着していないことが分かる。コンパスを使う意味を理解し，正しい使い方を定着させるとともに，授業の中でコンパスを使って，作図等を行う学習の時間を充分にとる。。
測定	平均正答率は，市の平均より低い。 ○はかりの目盛りを読みとり，重さを答える問題は，よくできていた。授業ではかりで量る経験をしたことが，定着につながっていると考えられる。 ●重さを基準量のいくつ分かで考え，説明することができるかどうかの問題に課題が見られた。	・物の量感が十分に定着していないことが分かる。引き続き具体物を使った操作を繰り返すことで重さを実感できるようにしていく。
データの活用	平均正答率は，市の平均より低い。 ●二次元の表から傾向を読み取る問題に課題が見られた。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフについて，適切である理由を選ぶ問題に課題が見られた。	・複数の棒グラフをあわせた読み取りが十分には定着していないことが分かる。複数の棒グラフから数量や目盛りの大きさを読みとる類題に取り組ませ，理解を深める。 ・身の回りの事象について表やグラフを用いて考察する活動を通して，複数の棒グラフを組み合わせたグラフの良さに気付かせるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	57.5	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	50.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	67.0	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	56.3	72.0	70.1
観点	知識・技能	60.3	72.5	70.9
	思考・判断・表現	57.4	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ●糸電話の糸をつまんだ結果から，震えを止めたときの音の伝わり方の変化について，記述できるかどうかをみる問題に課題が見られる。 ●磁石につくものの条件についての正しい考察ができるのかをみる問題に課題が見られる。	・様々な条件の実験を行うとともに，なぜそのような結果になるのか根拠を考えさせる授業を展開する。 ・磁石の問題に関して，「電気を通すもと」と「磁石につくもの」の集合の範囲を視覚的に図式化したベン図を児童に作成させる学習活動を取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ●粘土の形の違いによる重さの変化について，予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる問題に課題が見られる。 ●同じ体積でも材質の種類によって重さは異なることを考える問題に課題が見られる。	・「質量保存の法則」について予想を立てさせてから実験をし，結果の理由を考える活動を取り入れる。 ・理科の授業に留まらず，同じ大きさでも物によって重さが違うことを生活体験からも考えられる授業を行う。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ●植物の成長（ホウセンカ）の過程について理解しているかどうかをみる問題に課題が見られる。 ●クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数を比較し，クモが昆虫であるか判断する問題に課題が見られる。	・観察を継続する過程の中で，絵をかくだけでなく、前回に観察した時と，どこに差異が見られるのかを考えさせる学習を取り入れる。 ・色・形・温度・大きさ・本数など，比較するときに何に着目するべきであるのかを提示もしくは児童に思考させることで，特徴を捉える感覚を身に着けさせる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ●方位磁針の使い方が身に付いているかどうかをみる問題に課題が見られる。 ●午前と午後に，日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた場合の記録がどうなるのか理解しているかどうかを見る問題に課題が見られる。	・年間を通して方位を教室に掲示するとともに，教科横断的な視点に立ち，社会科などの学習においても方位について繰り返し学習させる。 ・実験の予想の段階で，それぞれが考えた条件に合う結果について考えさせる学習を行う。

宇都宮市立国本中央小学校 第４学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

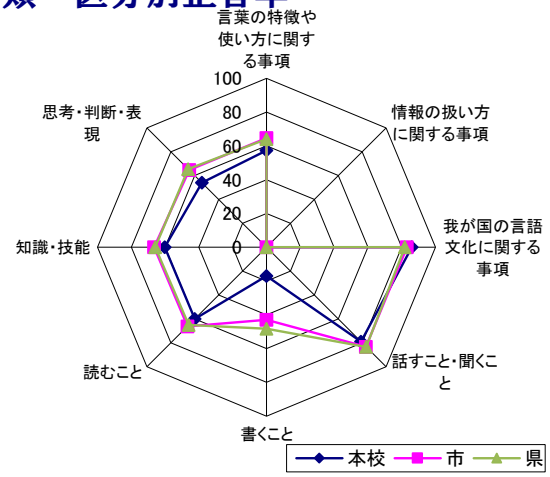
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている」の設問に関しては，「はい」と答えた児童の割合は，68.5%で県と比較して非常に高い。意欲的に学習に取り組んでいることがわかる。児童にとってわかる授業の展開をしているからだと思われる。
○「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の設問に関しては，「はい」と答えた児童の割合は，74.1%で県と比較して非常に高い。聞き方の掲示物や日頃の聞き方の指導など，聞くことの意識を高める取り組みを実施しているからだと思われる。
○「授業では，自分の考えを発表する機会が与えられている」の設問に関しては，「はい」と答えた児童の割合は，48.2%で県と比較してやや高い。教師が各教科の授業において，意図的に児童の発表の場を設けているためと思われる。
●「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問に関しては，「はい」と答えた児童の割合は，40.7%で県と比較して大きく下回っている。今後は，各教科の授業において，話し合い活動を日常的に取り入れるなど授業を改善していく。
●「授業で分からないことがあると，先生に聞くことができる」の設問に関しては，「はい」と答えた児童の割合は，38.9%で県と比較してやや下回っている。今後は，児童が安心して，自由に聞くことができる学級の雰囲気作りや児童と教師の信頼関係を深めていけるよう努めていく。

宇都宮市立国本中央小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	57.3	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	86.0	83.1	81.9
	話すこと･聞くこと	79.0	83.3	83.4
	書くこと	17.0	42.8	48.2
	読むこと	60.0	66.1	65.1
観点	知識･技能	60.2	66.5	65.9
	思考･判断･表現	54.0	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

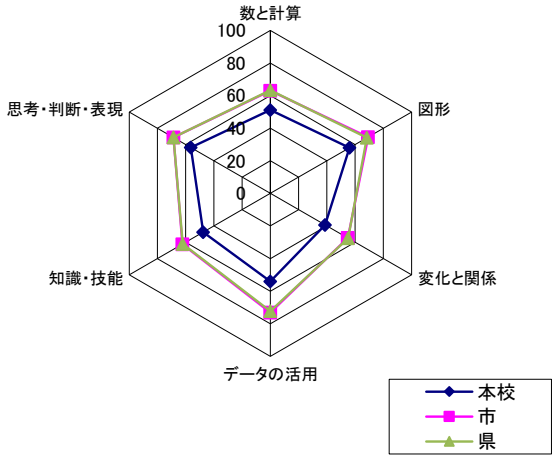
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●文の中における修飾と被修飾の関係をとらえる問題では，正答率が0%だった。 ●熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ問題において課題が見られる。 ●漢字の読み書きに課題がある。	・朝の活動の時間を活用し，漢字の書き取りの練習を重ねたり，小テストを実施したりすることで漢字の定着を目指していく。さらに，物語文や説明文を書く際には，主語・述語・修飾語・被修飾語といった単語同士の関係をしっかり押さえながら文を読むように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市の平均より高い。 ○「ちりも積もれば山となる」のことわざの使い方については，理解できている。	・多くの言葉に触れる機会を意図的に設けたり，授業の中で国語辞典を引いたりすることを継続的に行っていく。また，自主学習で取り組むよう声掛けを行う。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶことはできている。 ●話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ問題に課題が見られる。	・話の内容について聞き取る力は付いているが，聞き取ったことをまとめることに課題がある。話合い活動において，自分の話と相手の話の相違点を見つけながら話合いを進める練習をする。
書くこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ●内容の中心を明確にし，事実と自分の考えを書くことができるかどうかの問題に課題が見られる。 ●アンケートの結果を読み，2段落構成で文章を書く問題に課題が見られる。	・指定された段落や文字数の条件に合わせて文章を書く習慣を付けるため，朝の活動で取り組んでいる作文において条件を設けて書く練習を行う。
読むこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ●全般として，記述式の問題形式の正答率が低い。 ●主題に迫る問題において，課題が見られる。	・物語文の叙述を基に登場人物の気持ちを読み取っていく学習で文字数を指定したり，説明文の学習でキーワードとなる言葉を見付けて記述する活動を入れたりすることで，文章全体を把握する力を高める。

宇都宮市立国本中央小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.2	63.0	63.3
	図形	56.0	69.2	68.3
	変化と関係	38.7	54.8	55.0
	データの活用	54.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	47.6	62.3	62.1
	思考・判断・表現	56.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

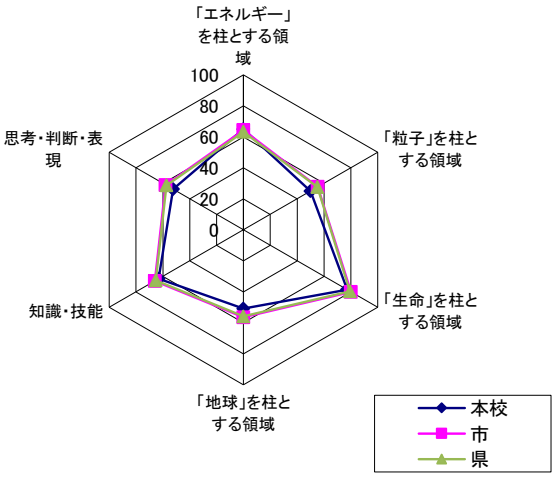
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均より低い。 ●除数が2けたの計算や小数×整数の計算に課題が見られる。	・かけ算やわり算の問題に数多く取り組ませ，計算の仕方に慣れさせる。その際，積や商の見積りをしながら自らの計算の正確さをしっかりと見取れるようにすることで確実な定着を図っていく。
図形	平均正答率は，市の平均より低い。 ●三角定規の角の大きさを理解し，組み合わせてできた角の大きさを求めることに課題が見られる。 ●ものの位置の表し方を理解し，もとにする位置を考えるかどうかをみる問題で課題が見られる。	・日常の場面で，三角定規の角を利用して角度を測る活動を取り入れたり，複数の三角定規を重ね合わせる活動を取り入れたりすることにより，角の大きさに対する理解を深めていく。 ・ある地点を基に，それぞれの場所を見つけるという具体的な活動を取り入れることにより，物と物の位置関係を理解させることで，位置関係を数値としてとらえられるように
変化と関係	平均正答率は，市の平均より低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係を適切に式に表すことに課題が見られた。 ●割合が基準量の何倍かで求められることを理解できていなかった。	・身の回りの具体的な事象について，伴って変わる2つの数量を表に表し，○や□に置き換え，2つの数量関係のきまりを見付けさせることで，□や○などの記号を使った文字式に対しる理解を深めていきたい。 ・具体物を使い，基準量の何倍になるかという日常の事象を考えることにより，割合を使って説明できるようにしていきたい。
データの活用	平均正答率は，市の平均より低い。 ●折れ線グラフの特徴を理解し，傾きから変わり方を読み取ることに課題が見られる。 ●二次元の表の意味を理解し，表の数が何を表しているか答える問題について，表を適切に読み取ることに課題が見られる。	・低学年のうちから，学習や日常の場面において，身の回りの事象について表やグラフに表すことを習慣化させる。また，どのような情報を集めるとよいか考えさせたり，表やグラフからどのようなことが分かるか，数値やグラフから読み取ったりすることで，データの活用の定着を図っていくようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	65.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	50.0	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	77.3	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	50.8	56.4	55.8
観点	知識・技能	63.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	52.5	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より高い。 ○直列つなぎを理解することはよくできている。 ●電流が流れない回路を流れるように改善できるようにする問題に対して課題が見られる。	・実験でより多くの児童が実際に実験道具を操作する学習にこれからも取り組んでいく。 ・授業の基本的な展開は実験を成功に導くことである。児童の思考力を高めるためにも，電気の学習であれば，回路ができていない場面を提示し，どこに問題があるのかを考えさせてから自分の考えが妥当であるか確認する実験も取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ○温度による空気の体積の変化に着目する問題については市の平均を上回っている。正答率は高くない。 ●湯気について理解しているかどうかをみる問題に対して課題が見られる。	・気体・液体・固体の概念及び定義を繰り返し指導し，更なる定着を図る。代表児童が実験する機会を減らし，児童全員が実験できる機会を増やす。 ・「水蒸気」と「湯気」について児童は混同しやすい。水蒸気は目に見えない気体であり、湯気は空気中で冷やされた水蒸気が凝縮した目に見える液体である。既習の，「目に見えないもの=気体，目に見えるもの=液体」等を明示した説明図解を掲示したり，児童に作成させたりする指導を繰り返し行うようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ○サクラの夏の様子についてよく理解している。 ●骨のはたらきについて理解しているかどうかをみる問題に対して課題が見られる。	・これからも時季に合わせて実際に観察をし，生活体験の中から学習する指導を行っていく。 ・骨と筋肉のはたらきの違いについて再確認させ，6年で学習する「ヒトや動物の体」につなげていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ○空気中の水蒸気が冷やされると結露して液体の水になることを，窓に付いた水滴と関連付けて考えることは市の平均を上回っている。正答率は高くない。 ●雨の時の気温の変化を表したグラフを指摘し，選んだ理由を記述できるかどうかをみる問題に対して課題が見られる。	・正しいことを述べていても，資料には載っていないといった判断を惑わせるような記述があると，正答率が下がってしまう傾向にある。観察する物の差異点や共通点を見いだせるようにするとともに，どの情報が大切なのか選ぶ学習を行っていく。 ・教科横断的な視点に立ち，理科以外でもグラフの読み取りをする学習を意識的に取り入れていく。

宇都宮市立国本中央小学校 第５学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」に「はい」と答えた児童の割合は58．0%，「授業を集中して受けている。」に関しては64．0%と県と比較して高いことから，授業中の学習活動に前向きな気持ちや充実感をもって取り組んでいることがわかる。
○「先生は学習のことについてほめてくれる。」に「はい」と答えた児童の割合は64.0%，「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」に関しては70.0%と県と比較して非常に高いことから，教師の指導に対して素直に聞き入れ，安心感をもって学習に取り組んでいることが缶がられる。しかし，授業中に分からないことが多いという実態も見える。
●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」に「はい」と答えた児童の割合は22.0%，「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」に関しては34.0%，「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」に関しては，46.0%と県と比較してそれぞれ低い。良好な状況と対比して考えると，一斉指導には前向きに取り組むことができるが，友達同士の話し合い等の学習活動には苦手意識を抱えている実態が分かる。
●「授業の中で、目標（めあて・ねらい）がしめされている。」に「はい」と答えた児童の割合は54.0%，「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」に関しては32.0%，「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。」に関しては42.0%と県と比較して非常に低いことから，一単位授業ごとのゴールが不明瞭な状態であるということが見て取れる。

宇都宮市立国本中央小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
他者の思いをより深く理解し，友達と学ぶよさを実感できる授業の展開	・意図的なペアやグループ学習の実施 ・自分の考えを安心して話せる雰囲気づくり	・一斉指導の中では自分の意見を発表する場が与えられていると実感し進んで学習に取り組んでいるが，グループでの話合い活動に関する設問では意欲的に取り組めていると回答した児童は市の平均を下回った。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・漢字の書き取りや数の計算等，基礎基本が定着していない。	・定着を図るための時間の確保	・朝の学習や授業の最初の5分を使っての漢字や計算の反復練習や小テストの実施。